

目的 演者らは、アンケート調査ではなく課題遂行形態の実技調査によって食事づくりに必要な知識・技能とは何かを明らかにしようとしている。特に能力が低いとみられる男性の食事づくりの行動を調べることによって前述の目的の達成にせまることができるものと考えられる。本報告では食事づくりのうち調理操作を中心に報告する。

方法 調査対象は本学学生男女各々10名、調査時期は昭和59年4月、昭和60年11月である。調査方法は、3人分の夕食をつくることを想定し対象者の買物および調理中の操作を記録者が記載したものを集計し男女比較を行った。

結果 ①調理時間は男女とも80~90分で差は認められなかった。これは対象者が調査に用いた調理実習室を使用するものが初めてであるため、器具等の準備に時間を必要としたためと思われる。②調理操作をフローチャート化して教えた結果、女性は男性より調理操作数が多い。これは女性の方が複数の料理のための操作を同時に行っていることによるものであった。③包丁による調理操作をみると、皮むき等の前処理を含む切り方の種類は女性の方が多かった。特に男性では、くし切り、輪切りのような初歩的な切り方が多く、女性ではみじん切り、織切りのような高度な切り方が多く現われた。